

出版物ごあんない

◇山川コレクション図録

本館へ一括寄託され保管されている山川美術財団蔵品図録が「山川コレクション図録」として刊行されました。昭和38年版はすでに絶版で再刊がまたれていたものです。再刊図録は蔵品のほとんどを収録しています。 1部 250円

◇ロートレック展図録

3月6日より開催される「ロートレック展」の解説図録が刊行されます。全作品を収録、作家評伝・作品解説つき原色版23枚を含む豪華図録です。ご鑑賞の手引きとしてご利用下さい。 一部 500円(予定)

◇浮世絵名作展図録

4月開催の浮世絵名作展の図録も刊行されます。全作品を収録し、浮世絵鑑賞の手引きとして利用できるよう配慮されます。 売価 未定

◇古九谷

本館九谷展示室の案内書として作成されたもので、九谷焼の歴史を目で見る手頃な案内書として好評を博しています。 一部 300円

美術館愛好会員コーナー

◇会のあゆみ

昭和41年の秋頃、当館の展観を毎回鑑賞にこられる方から毎回の展観通知をいただく方法がないかというお話があり、他館でやっている「友の会」の組織ということも考えましたが、とりあえず郵便料だけを個人的に負担していただくことでご連絡する現在の「愛好会」が、昭和42年4月よりスタートしました。昭和42年度は500名43年度は600名としましたが、毎回の展観に足を運ばれるのはそのうちの100名前後で、正直いって私共館員は落胆しました。時には宛名を書くペンの走りにもぶることすらありました。これは100円という低料金のために、ただ何気なく申込まれた方があるのではないかということになったのです。そして館の方で負担していただく印刷費の問題なども考え合わせて44年度は少し料金をアップすることにしました。

◇昭和44年度の会員募集について

本年度は下記の要項で会員を募集中です。ご希望の方はお早く申込み下さい。

- 一般 150円 定員450名
- 学生以下 100円 定員50名
- 会員には下記の特典があります。

毎回の展観内容をお知らせする「会員証」をかねたニュースを送付

会員は団体料金に割りきになります。

会員にはニュースのほか、美術館だより、などの印刷物を配布し、本館で開催する講演会、講座、鑑賞会、見学会などの通知をうけ、その催しに参加できます。

ロートレック展に会員の方は同封の入場割引券をご利用下さい。

この欄は今後愛好会員の投書欄にしたいと思います。ご希望、ご意見、ご感想等を係までお寄せ下さい。できるだけ掲載したいと思います。

ニ ュ ー ス

◇北出塔次郎氏逝去

本館開館以来の専門委員であり、又県文化財専門委員でもあった陶芸家北出塔次郎氏は病氣療養中のところ昨年12月12日逝去されました。70才。謹んで哀悼の意を表します。

昭和7年帝展初入選、11年富本憲吉氏に師事して九谷に新風をふきこんだ。金沢美大設立と同時に同校教授となり、36年にフランス、イタリアへ留学、38年には日展で文部大臣賞を、43年春には芸術院賞を受賞、又40年には金沢美大を定年退職し同校名誉教授となった。文化関係の表彰を数多く受け、又文化財関係の役職も多く兼ねられていた。

◇県立郷土資料館の開館

かねて開館準備中であった県立郷土資料館が昨年11月23日開館しました。旧第四高等学校の赤レンガ校舎を転用した当館と同様博物館施設で、石川県に関する自然、歴史、考古、民俗の資料を蒐集し、石川県の歴史的な流れが概観できるようそれ等の資料を展示したいわゆる「郷土歴史博物館」です。

■ 編 集 後 記

本年度で開館10周年となりますが、漸くここに美術館だより第1号を刊行することができました。美術館と入館者との連絡紙として、又美術館のPR紙として豊富な内容をもりこんでいきたいと考えています。

一応年4回の発行を目標に皆様方と私共館員の心のつながりを一層深めることに役立ってくれば幸いです。皆様方からのおたよりもお待ちしております。

美術館ニュース	創刊号
発行所	石川県美術館
	金沢市兼六園内
	PHONE (0762) 31-7580
	〒 9 2 0

石川県美術館だより

創刊号

昭和44年2月20日発行

美術館別館の開館



別館全景

当館の施設を拡充するため、本館に隣接して昭和43年2月から建設中であった別館が、昨年9月22日に落成開館しました。

谷口吉郎博士監修、五井建築設計研究所の設計、真柄建設株式会社の手になるもので、鉄筋コンクリート地下

1階地上2階の冷暖房温度調節付きの近代建築です。地下は文化財殺虫室、荷解室、機械室で、機械室では別館の温度調節と本館の冷房を行っています。

1階は茶室と立礼式茶室及び事務室、化粧室、お手洗です。

2階の展示室は、いままで本館にあった古九谷を中心とする九谷関係資料をこの展示室に移し、九谷展示室として常設することになりました。今まで本館に大きな展観を開催すると九谷展示室がなくなり、九谷のみを鑑賞するために当館へおとずれた方にご迷惑をおかけしていましたがこれで解消され、又本館が陳列替え期間休館しても、別館は当館の定例休館日以外は開館することになっています。

そのほか図書資料室と研究室が設けられており、美術や文化財に関する図書や他館との交換図録・ポスター、当館が刊行した図録や開館以来の写真記録、文化財調査記録写真などを当館で保管しています。

文化財紹介 —美術館所蔵品から—

国宝 色絵雉香炉 野々村仁清作

野々村仁清は丹波国桑田郡野々村に生まれ名を清右衛門といい、京都に出て御室の仁和寺の門前に開窯し、仁和寺の御用窯として作品を焼成し、仁和寺の「仁」と通称の清右衛門の「清」の頭文字をとって「仁清」と称したと伝え、それを作品に用いている。

生歿年はいまなお詳かでないが、万治2年(1659)に播磨大掾藤原正広入道としての榮譽をうけているところから、最も活躍した年代は明暦から寛文にいたる江戸時代初期であったと推定される。

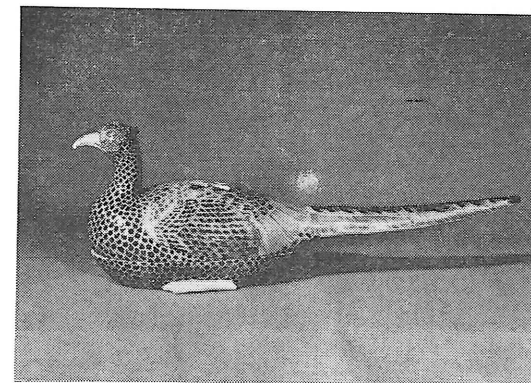
作風は作品の需要先が、金森宗和(江戸初期の茶の湯の大家)を通じて仁和寺宮や東福門院らを中心とした公卿貴族が対象であったことがその造形文様などの意匠にあらわれ、極めて優雅な京風の日本貴族趣味を強調しているものが多い。

この色絵雉香炉は、仁清の彫塑的な作品のうちでも特にすぐれ、胴は脊部と復部との上下二つに分かれ、蓋になる脊部に四個の半月状の煙出し孔があり腹部の内側に高い合口がたって上下二つがかみおうようになっている。

素地はわずかに黄色味をおびて一面にあらひ貫入があ

り、その上に緑、紺青、赤、黒、金の極彩色で、目、とさか、耳、羽根、羽毛を描いた豪華な作品で、特に脊上から尾先にいたるスマートな線の流れがこの作品をより引立たせている。脊部と腹部の内側にそれぞれ「仁清」の刻印がある。

仁清の特色をあますところなく発揮した古来やかましい作品で、本館開館を記念して金沢の素封家故山川庄太郎氏より寄附されたものである。(高さ18cm、左右47.6cm、胴径12cm)



国宝 色絵雉香炉

美術館だより刊行にあたり

石川県美術館も設立されて本年秋で満十年になります。設立当初は古美術工芸の展示を主として発足しましたが、観賞の人達は老若各般各層で、展示内容についても種々なるご希望があり、もとより本館の特色上古美術重点の基本方針に変わりありませんが、可能の限り新しい絵画、彫刻、工芸などの催しも織込みながら今日に到っております。

幸い久しく皆様方のご要望になっておりました別館も昨年秋完成し、階上は本県の誇る古九谷の常時陳列室に、階下はこれまた我が国茶道人口の最も多いと云われる本県の茶道界と、茶道工芸振興のため、茶室として一般の使用に供し、併せて常時観覧者のご希望により抹茶を提供することにしてあります。

本年度以後更に本館陳列ケースを総て壁面にとり、絵画、工芸いずれの展示にも適応したものに改造すべく計画をたてております。

いずれにしても美術愛好の皆様方と常に密接なつながりをもって、一層ご希望に添うべく昨年より「美術愛好会」を発足し、葉書通信で皆様と連絡を続けておりましたが、今回季刊として「美術館だより」を刊行することになりました。

今後当館はもとより、中央、地方の催し、計画について、また皆様方の声もスペースの許す限りご掲載したいと思っております。

まことに貧弱な刊行物ですが、皆様方と更に密接なつながりの一助ともなれば幸いに存じます。

(石川県美術館長 高橋勇)

茶室のご案内

茶道を通じて文化財に親しみをもつていただくために、別館に茶室が設けられました。

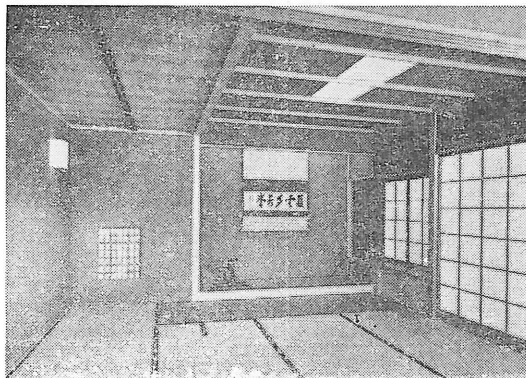
桃山時代の画聖俵屋宗達の号名にあやかって「対青軒」と名付け、日本画家安田鞆彦氏揮毫になる扁額が茶室入口に掲げられています。

茶室は八畳の和室と立礼式茶室がり、両室を兼ねて四畳の水屋が設けられています。茶道具は一通り用意してあり、これを含めて下記の料金で一般に開放していますので、同好の方のご利用をお待ちしています。

茶室使用料(諸道具付き)但し当館の休館日は利用できません。

使用時間午前9時より午後4時まで(暖冷房付き)

20名まで	3,000円
21名から50名まで	4,000円
51名から100名まで	6,000円
101名以上	8,000円



展観のおしらせ

■ ロートレック展

3月6日—3月26日(休館日なし)

フランスの画家、ロートレックの作品展が本館で開催されることになりました。

大貴族の末裔でありながら、廃疾の身をモンマルトルの夜のちまたにさまよわせ、ムーランルージュの巨匠として君臨したロートレックの名は早くから人びとに親しまれていますが、彼の作品を系統的に紹介される機会は今度が初めてで、近代絵画の理解にとっては非常に大なるものがあると思います。こうした大きな催しは、そのほとんどが東京と関西地方の二ヶ所のみでしか公開されていませんが、今回は読売新聞社の肝入りで本館で開催されることになりました。もちろん日本での最後の展観となりますので、この機会をお見逃しなくご鑑賞されますようお願いいたします。



ロートレック展ポスター

主催 石川県・石川県教育委員会・読売新聞社・アルビ美術館・当館

後援 外務省・文化庁・フランス文化省・フランス外務省・フランス大使館・金沢市

作品 ロートレックの代表作 油彩40点・デッサン19点
石版画・木版画 133点・ポスター21点・但し会場のスペースの都合で一部出品しない場合もある。

時間 午前9時より午後4時30分まで、但し入場券発売は午後4時までとする。

入場料 団体は20名以上とします。

	大人	高大生	小中生
個人	300	200	100
団体	200	100	50

前売りは団体料金並みで、当館・読売新聞社各支局、市内プレガイド、タバコ販売店で発売中です。

なお5日午後2時より高松宮両殿下をお迎えして開会式が挙行されます。

■ 日本画総合展

4月1日—4月13日(休館日なし)

日本画の伝統ある地域としての京都日本画家協会の協力により、新制作京都日本画家新人展、京都日本画壇新人選抜展、京都日本画中心堅作家展、京都日本画家山紫会展に出品した作家の総合展で、現代日本画の動向を知る上には格好の催しで、最近現代日本画界にとって注目されてきた展観です。出品作家数は170名におよびます。

■ 浮世絵名作展

4月19日—5月5日(休館日なし)

当館ではすでに昭和36年5月に「近世美人風俗画展」昭和41年3月に「浮世絵美人画展」というテーマで、浮世絵関係の展観を開催しましたが、これ等はいずれも美人画対象の肉筆浮世絵でしたが、本展では北斎・広重等の風景画から美人画・役者絵等を含む浮世絵全般にわたり、版画・肉筆画と日本浮世絵 200年の歴史の歩みを鑑賞する名作展です。

出品点数は150点の予定ですが、作品の性質上褪色防止をかね会期中展示替えを行ないます。

■ 昭和44年度前期の展観について

昭和44年度前期の展観行事予定が下記のようにきまりました。多少の変更はあるかも知れませんがその場合は美術館ニュースでお知らせします。

◇日本画総合展

4月1日—4月13日(休館日なし)

◇浮世絵名作展

4月19日—5月5日(休館日なし)

◇王仁三郎遺品名作展

5月11日—5月17日(休館日なし)

北国新聞社と共催で、大本教祖出口王仁三郎の墨蹟・水墨画・工芸品の遺作を展示します。

◇アジア文明の神秘をさぐる 出光コレクション展

5月22日—6月8日(休館日なし)

北陸中日新聞社と共催で、東京出光美術館の所蔵品の中から中近東・中国・朝鮮・日本を含めたアジアの古代・中世・近世にいたる秘宝を展示し、アジア文明の推移を見せる展観です。

◇日本の古窯展

6月14日—8月3日

古窯シリーズ第4回展で、丹波・瀬戸・信楽について本年は常滑の作品を展示。

◇郷土名刀展

8月9日—8月31日

県内に現存する名刀と、加賀刀工の作品を県外にあ

る分も含めて展示。

◇安宅コレクション展

9月6日—9月28日(休館日なし)

安宅産業株式会社(本県出身者)が所蔵する古美術品を主体にした展観。

美術品の寄附について

当館の事業が広く認識されるにともなって開館以来多くの篤志家から好意ある美術品の寄附申出がございましたが、本年度中には次の作品の寄附申出がございました。あらためてお名前を記し感謝の意を表します。

◇現代京友禅衣裳 50振

金沢市 高島弥三郎氏

昭和10年から42年までの京都染色美術展上位入選作を集められたコレクションで、現代京友禅研究資料として、又染色ひいては美術工芸の図案研究資料として貴重である。当館では「高島コレクション」と名付けて保管することにした。

◇金地墨画虎図六尺六曲屏風 1 双

金沢市 山田彦三郎氏

金地の大画面に墨一色で虎を描いた岸駒晩年の傑作である。なおこの作品は県文化専門委員会から、県指定文化財としての答申があった。

◇金地著色御所車図六尺六曲屏風 1 隻

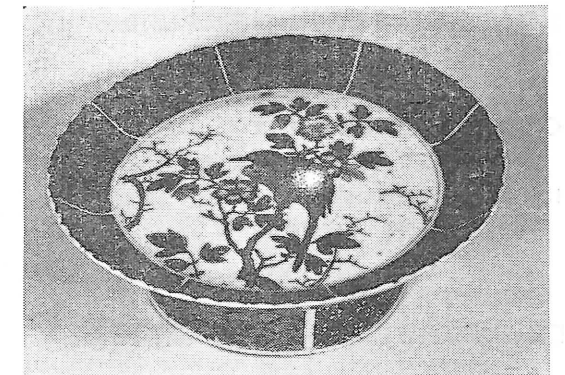
金沢市 山田彦三郎氏

画面一杯に極彩色で御所車を描いた江戸期の作品・作者不詳

◇古九谷色絵花鳥図台鉢 1 箇

小松市 町原 家

古九谷では数少ない台鉢の一つで、古くから紹介されている名品である。見込みに花鳥を五彩で描き、ふちを八つに間取って青海波文様をうめつくした最も古九谷らしい作品である。



古九谷色絵花鳥図台鉢